

平成25年度全国学力・学習状況調査の概要について【小学校】

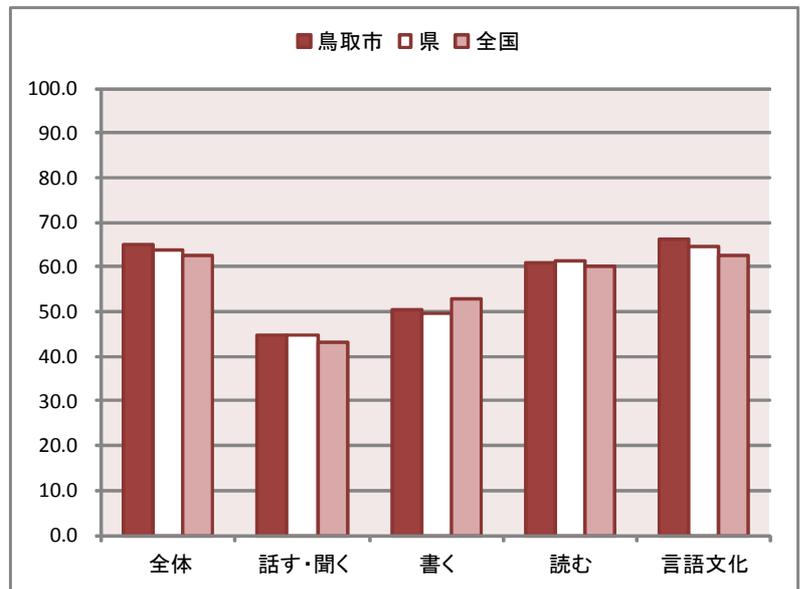
鳥取市教育委員会

本年4月24日にすべての小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査について、本市の概要をお知らせします。本調査により測定できる学力は一部ではありますが、児童の学力・学習状況の把握と全国の集計結果との比較ができます。

教科の調査から ー国語・算数（A〔知識〕・B〔活用〕）ー

※ 表及びグラフの数値は、すべて平均正答率(%)を表しています。

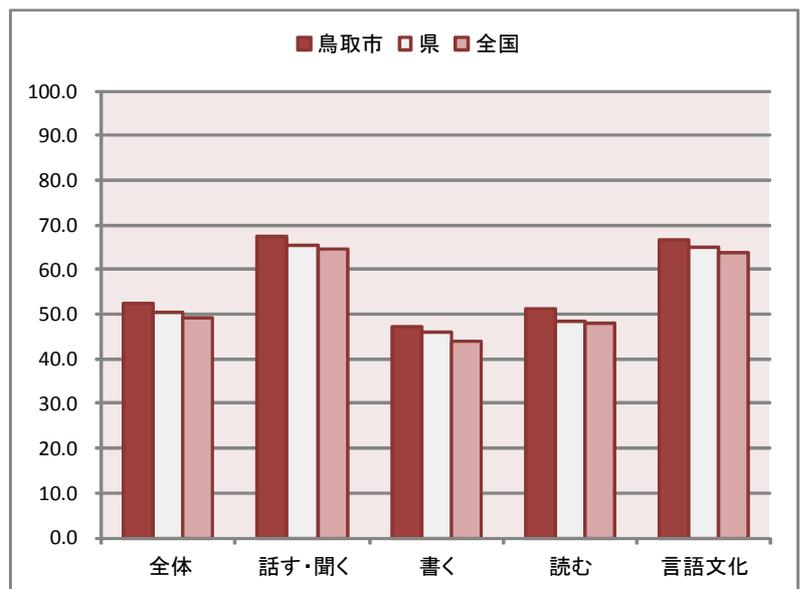
国語A	鳥取市	県	全国
全体	65.2	63.9	62.7
話すこと・聞くこと	44.8	44.7	43.2
書くこと	50.3	49.8	53.0
読むこと	60.9	61.4	60.1
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.1	64.7	62.6



国語A〔主として知識にかかわる問題〕

- ・全体において全国平均を上回っています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において全国平均を大きく上回っています。『漢字を正しく読む・書く』に関しては特に良好です。
- ・「書くこと」領域において全国平均を下回る結果となりました。特に『文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って1文を2文に分けて書く』問題において全国平均を4.6ポイント下回っています。

国語B	鳥取市	県	全国
全体	52.5	50.4	49.4
話すこと・聞くこと	67.4	65.4	64.8
書くこと	47.4	45.9	43.8
読むこと	51.1	48.4	47.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.5	65.0	63.8



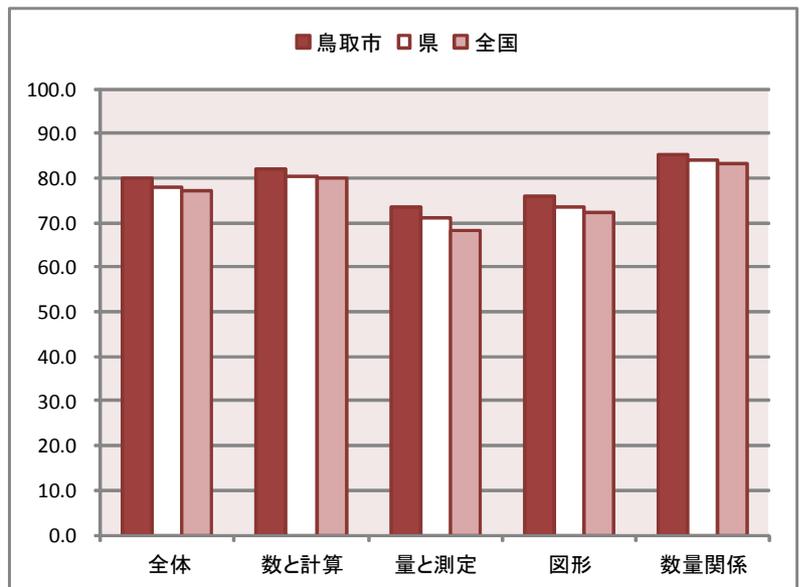
国語B〔主として活用にかかわる問題〕

- ・すべての領域等及び問題において全国平均を上回っています。
- ・「書くこと」「読むこと」の2領域において全国平均を大きく上回っています。特に『ずかんの一部の中から花火師の苦勞が具体的に書かれている内容を引用して書く』問題において全国平均を7.9ポイント上回っています。

算数A	鳥取市	県	全国
全体	79.9	78.1	77.2
数と計算	81.9	80.4	80.2
量と測定	73.6	71.2	68.3
図形	75.8	73.7	72.5
数量関係	85.3	83.9	83.4

算数A〔主として知識にかかわる問題〕

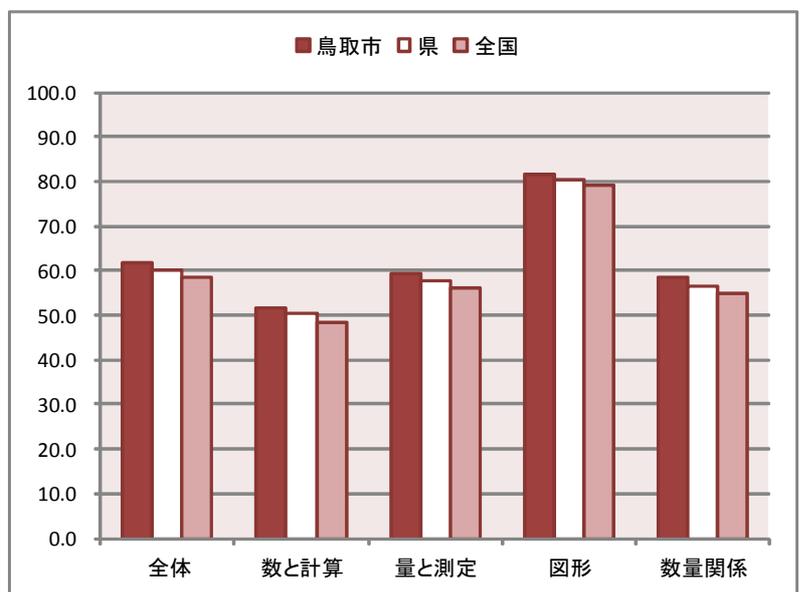
- ・すべての領域において全国平均を上回っています。
- ・「量と測定」「図形」の2領域において全国平均を大きく上回っています。特に『台形の面積を求める式と答えを書く』問題において全国平均を11.9ポイント、『1アールと等しい面積になる正方形の一辺の長さを選ぶ』問題において全国平均を6.1ポイント上回っています。
- ・全国平均を下回る問題は『同分母の分数の加法の計算をする』（-5.1ポイント）、『小数の加法の計算をする』（-3.0ポイント）でした。



算数B	鳥取市	県	全国
全体	61.8	60.2	58.4
数と計算	51.7	50.4	48.3
量と測定	59.4	57.8	56.0
図形	81.5	80.4	79.3
数量関係	58.4	56.7	54.9

算数B〔主として活用にかかわる問題〕

- ・すべての領域及び問題において全国平均を上回っています。
- ・「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3領域において全国平均を大きく上回っています。
- ・『帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く』問題において全国平均を6.2ポイント上回っています。



児童質問紙調査から ―学習習慣や生活習慣などに関する質問―

1. 早寝・早起き・朝ごはんについては、全国との比較においても、経年比較においても概ね良好な状況にあるといえます。
2. 自分にはよいところがあると思う児童の割合は、経年比較において、昨年までは確実に上昇していましたが、本年は昨年より5.4ポイント低下しています。全国との比較においても、やや低い状況です。将来の夢や希望を持っている児童の割合は、経年比較において上昇していますが、全国との比較においてやや低い状況です。
3. 「学校のきまりを守る」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「いじめはいけない」「人の役にたつ人間になりたい」といった項目については、良好な状況が高い水準で推移しています。
4. 家庭学習の時間、読書の機会が確実に増加しています。
5. 普通の授業で発表や話し合う活動の機会が与えられていると思う児童の割合が、全国との比較において高くなっています。
6. 国語の学習において、書く活動や話す活動を難しいと思う児童の割合が、経年比較において低下しています。また、読む・話す・書く場面において工夫している児童の割合が、経年比較において上昇しています。
7. 携帯電話やスマートフォンを所持している児童の割合が、全国との比較においては低いものの、昨年との比較において11.6ポイント上昇しています。その一方で、家の人との約束を守っている児童の割合は、全国平均との比較において-12.7ポイントと大幅に低い状況です。また、ゲーム機等の使用の割合も経年比較において上昇しており、これらのメディアに接する機会が確実に増加しています。